

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	固体音小委員会	主 査 名：稲留康一 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：田辺新一 主 査 名：岡野利行
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ AIJES 制定および制定後の床衝撃音遮断性能の測定・評価方法に関する諸課題を解決するため各種検討を実施する 2013 年度の活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボール衝撃源による床衝撃音測定データ (A 特性音圧レベル、床材の床衝撃音レベル低減量、暗騒音等) の収集・整理 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 (2013 年度)	
	主査：稲留康一 (奥村組) 幹事：矢入幹記 (鹿島建設)、中森俊介 (小林理研) 委員：岩本毅 (三井住友建設)、井上勝夫 (日大理工)、漆戸幸雄 (フジタ)、河原塚透 (大成建設)、中澤真司 (鉄建建設)、濱田幸雄 (日大工)、平光厚雄 (国総研)、藤橋克己 (前田建設)、松岡明彦 (戸田建設)、村上剛士 (日総試)	
設置 WG (WG 名：目的)	○鉄道固体音測定法検討 WG 鉄道固体音など、床衝撃音以外の固体音に関する測定や評価は、各機関で様々な方法により実施されている状態である。そこで、固体音の測定・評価事例を調査し、測定方法や評価方法を整理することで測定法の統一化に向けた一助とする	
2013 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス： http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fb00-12/fb10-12.html

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. 「床衝撃音遮断性能の日本建築学会遮音性能規準策定に向けた諸課題に関する文献調査結果」のホームページ上での公開
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	昨年度から実施してきた床衝撃音遮断性能の日本建築学会遮音性能規準策定に向けた諸課題に関する文献調査を完了し、その結果を HP に公開した。ボール衝撃源による床衝撃音データの収集フォーマットを作成しデータを収集中である。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 床衝撃音遮断性能の日本建築学会遮音性能規準策定に向けた諸課題に関する文献調査結果のまとめ・公開 2. 床衝撃音データの収集
委員会活動の問題点 ・課題	無し

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今フェイズの固体音小委員会では AIJES 制定および制定後の床衝撃音遮断性能の測定・評価方法に関する諸課題を解決するため各種検討を実施中である。</p> <p>本年度は、昨年度から実施してきた床衝撃音遮断性能の日本建築学会遮音性能規準策定に向けた諸課題に関する文献調査を完了し、その結果を HP に公開した。</p> <p>ボール衝撃源による床衝撃音データの収集については、フォーマットを作成し、委員会委員にデータの提供を依頼中である。収集したデータにより 31.5Hz 帯域の床衝撃音レベルのばらつきの程度等を検討する予定である。なお、受音室内の床衝撃音分布を詳細に検討したほうがよいという意見もあり、次年度、現場実測を行う方向で検討が進められている。</p> <p>小委員会活動のこれまでの成果について以下の口頭発表を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活行為に起因する床衝撃音の測定例と標準重量衝撃源との対応 (OS) ・重量床衝撃音遮断性能の評価に関する研究 最大A特性床衝撃音レベルによる評価の検討

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。